

新作「さちの物語～貧乏神と福の神とさちの物語」

その中間報告

新作「さちの物語～貧乏神と福の神とさちの物語」は、12月17日(日)名古屋ひまわりホールでの「P新人賞受賞記念公演」が初演となります。地元久留米では、3月17日(日)石橋文化会館小ホールでの上演がお披露目となる予定です。

もともと7月に、同会場にて同作品で上演する予定でした。ところが、今年2月のP新人賞最終選考会にむけた「どんぐりと山猫というはなし」全面改訂と稽古、「さちの物語」稽古の難航によって、上演日を3月に伸ばすことになりました。

出口とは希望の提示？

私たちの創造する作品は、長年「孤立(社会的孤立)」を底に流れるテーマにして創られてきたと思います。煎じ詰めるならば、コミュニティからはじき出された者たちの物語を描き続けたのです。ところがP新人賞2019最終選考会(名古屋)での「猫の事務所」上演にて、審査員から或る一言がありました。「いじめの世界から出ていく出口の希望を具体的に描かないと、誰も出口から外に出たいと思わない」と。

もっともです。しかし、がんじがらめの世界からの出口(希望)を提示するには、表現者自身がその出口(希望)を見つけようともがなければ提示できません。表現行為は表現する自己を表すのです。それが無い表現は、普通こう言われます。「嘘っぱち」と。

それからの「どんぐりと山猫」、「どんぐりと山猫というはなし」、「一郎くんのリスタート」と続いた一連の賢治童話に想を得た私たちの作品改定。それは、がんじがらめの世界を描きながらも、そこからの出口(希望)を模索した作品改定でした。作品という架空の世界での模索は、現実世界での模索とつながりながら、延々と試行錯誤が続きました。

出口とは自己回復？

今回新作で描かれるのは、虐待からの自己回復です。家庭での面前DV、抜け出せない出口なき牢獄。そこから回復をとげていく主人公の中学生さちという存在は、回復という名の出口(希望)を示す存在であるはずですが。面前DVにさらされたさち。彼女は、どうやったら出口を見出せるのか。出口とは何か。何度も稽古が中断し、深く掘り下げていくミーティングと脚本の練り直しが進んでいます。

最後に、私たちの創造に大切な視座をあたえてくれた本を紹介しておきます。坂上香著「プリズンサークル」です。受刑者の回復を描いたこの本は、たいへん示唆的です。よかったら読んでみませんか？



【新理事就任のお知らせ】

竹島由美子さん(元西日本短期大学演劇部顧問) [任期: 2023年5月~2024年5月]

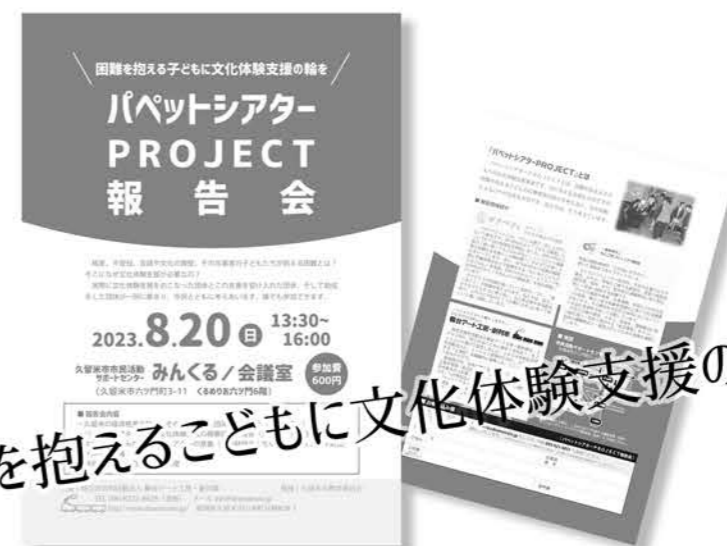


事務局 | 福岡県久留米市山本町耳納838-1 アトリエ | 福岡県朝倉市秋月197「アトリエ山猫舎」
電話 | 090-8222-8928 (釜塚) メール | info@dramatrain.jp ホームページ | http://www.dramatrain.jp

劇列車の活動を伝えるブログ「劇列車の地球の日々」
週1回めやすで更新中~QRコードからブログへアクセス~>



特集 変わりつつある劇列車~2023年度理事会・総会報告



パペットシアターPROJECT報告会

2020年度に開始されたパペットシアターPROJECT~困難を抱える子どもへの人形劇観劇体験支援事業。昨年度には、ちくご川コミュニティ財団様の子ども若者応援助成を得て、支援を3箇所へと拡大できました。

不登校のこどものフリースクール・みんなの学び館、久留米で貧困問題の解決に挑戦しているボナベティ、外国籍のこどもの支援にとりくむ久留米市立金丸小学校ワールドルームの先生方。2022年度は、そんな皆さんと協働して、困難を抱えた当事者への文化体験支援をおこなうことができました。

その活動報告会を、以下の日時で開催します。文化は生きるために不可欠のもの、地域社会の現状と文化体験の大切さについて、皆様とともに考えあいたいと思います。

| 日 時 | 2023年8月20日(日) 13:30~16:00
| 場 所 | 久留米市市民活動サポートセンター みんなる/会議室
(福岡県久留米市六ツ門町3-11 くるめりあ六ツ門6階)
| 参加費 | 600円

劇列車は、上演班を保有するアート系NPO - 2023年度通常理事会と総会

2023年5月28日(日)。えーるピア久留米にて、2023年度の通常理事会と総会が開催されました。私たちは、パペットシアターPROJECT~困難を抱えるこどもへの人形劇観劇体験支援事業を進める中で、このタイプの支援が必要であることを痛感しています。今後、この事業分野に持てる力を注力していくつもりです。理事会と総会では、「文化体験支援を担うために、NPO劇列車を強化する」ことが話し合われました。



【おもに話し合われたこと】

- 私たちはNPOであることを自覚する必要があること。
- コアサポーター会員会費を値上げすること。
- コアサポーター会員会費を、お得な鑑賞会費ではなく、「どんなこどもにも劇を！文化を！」のミッション遂行への寄付会費と位置づけ直すこと。

総会を経て、2024年度から、コアサポーター会員会費に対する考え方を変更します。お得な鑑賞会費の意味あいを持つ会費から、月500円=年額6,000円で、どんなこどもにも良質な劇を届ける劇列車ミッションと事業への賛助会費へと、会費の意味を変更し、位置づけ直します。

コアサポーター会員の皆様。NPO劇列車は、当事者への文化支援という道なき道を切り開いていこうとしています。どこまで歩むことができるかわかりませんが、行けるところまでは行ってみようという決意です。皆様からのお金での御支援、精神的御支援が、事務局と上演班を支えます。今後とも御支援をお願い申し上げます。



異種格闘技のような演劇と教育研究委員会

組織内研究委員会としての「演劇と教育研究委員会」。2か月に一度の例会も、今年6月で6回目を迎えました。

様々な分野で活躍する方々の参加を得て、この研究会はさながら異種格闘技の研究会の様相を呈しています。いつも刺激的な研究会となっています。



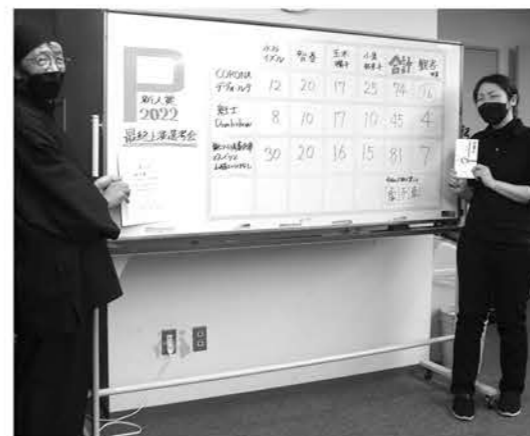
劇列車がP新人賞2022獲得！

P新人賞は、愛知人形劇センターが毎年開催してきた全国的な人形劇コンクールです。名古屋ひまわりホールで開催された2月18日(土)~19日(日)P新人賞最終選考会。その場での上演で、舞台アート工房・劇列車「どんぐりと山猫というはなし」がP新人賞を獲得しました。



斬新な表現が求められるP新人賞

P新人賞では、人形(モノ)とパフォーマンス(人間)の融合による斬新な表現が求められます。私たちの表現が、このような新人賞を受賞できたことを率直に喜びたいと思います。



異種格闘技のP新人賞最終選考会

P新人賞2022最終選考会に出演した団体は3団体。CORONA(インドネシアのワヤン影絵劇上演団体)74点、魁士(パントマイムと人形)45点、劇列車81点。これは審査員公開投票の結果です。プロ・アマ問わず、それぞれの表現が火花を散らした最終選考会でした。

名古屋で受賞記念公演

P新人賞を受賞した団体は、その翌年度に次回作にて、名古屋ひまわりホールでの受賞記念公演をすることになっています。

この日程が、12月17日(日)に確定しました。劇列車は、新作「さちの物語~貧乏神と福の神とさちの物語」(仮称)で受賞記念公演に臨む予定です。

